時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊

〇時事新報社ヨリ直接ニ遞送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

創業の功臣

東西の事例に徴するに古來創業の功臣にして其終を善くするものは甚だ少なし蓋し蓋世の功に兼ぬるに震主の威を以てし加ふるに位人臣を極めて榮一世に燿くあり假令ひ君臣の間は甚だ相得て水魚も啻ならずと雖も滿社會の耳目は一身に集りて恰も羨望の府たるが故に種々の讒間浮説は何時しか其間に入りて知らず〳〵の間に地位を動かして果ては意外の失敗なきを得ず即ち狡兎盡きて狐狗烹らるゝの譬にして之を古今の事例に徴して疑ふ可らず或は支那古代の歴史家の如き彭越の終を善くせざるを以て漢高の薄恩を咎るものあれども社會衆怨の歸する所は流石、寛仁大度の人主も爲めに忍ぶ所なきを得ず其人の薄恩なるに非ず社會の勢に從て然らざるを得ざるものあればあり殊に社會の耳目次第に發達すれば人言も亦次第に喧しく苟も功臣の身に關する事とあれば一毫の微も忽ち世上の問題と爲るが如き今日の時勢に於ては其進退いよ〳〵難きを知る可し然らば之に處する法如何にして可なるやと云ふに彼の後漢の光武帝が創業に參したる人々の俸祿を豐にして却て其權力を奪ふたるが如き功臣を處するの法を得たるものにして後世則る可きの銘案なれども今日は時勢の相違もあるが故に獨り之を人主たるもゝ處置に任ず可きに非らず唯その局に當る者が自身の利害と社會の治安との爲めに自から謀るの外なかる可し我國明治初年以來の當局者を見るに何れも創業の功臣にして既に功業の一世を蓋ふものある其上に近來は爵位勳等の如きも頻りに上進して人臣の榮を極めたる其上に至尊の御信任は厚くして一般の尊敬も乏しからざれば古代の所謂功臣と同日に論ず可きに非ずと雖も功名位地の盛にして且高きは羨望の府たるを免れざるものにして嘗に社會の燒點たるのみならず同流同輩の間に於ても互に相下らずして互に相嫌ふの意味なきを得ず明治初年以來維新の功臣にして往々晩節の全からざるものありしは即ち其一證として見る可きものにして現に今日に於ても政府内部の情實とて老政治家の間に兎角折合の妙ならざるものあるが如きも畢竟その邊の意味合に外ならざる可し或は其人々の心事に於ては維新革新の擧は幸に銘々の盡力を以て其功を奏したれども更に前途を眺むれば内治に外交に事の擧らざるもの甚だ多し即ち維新の大業は尚ほ其半に居るものなれば功臣たる吾々の責も未だ盡さゞる所ありとて自から任ずるみと深きみとならんなれども凡そ國家の大事業は國運の發達進歩に伴ふの約束にして十年二十年の間に其效を見ざるのみか或は五十年百年にして尚ほ結果の顯はれざるものもなきに非ず僅々一世一代の力を以て非常の大功を奏せんとするは到底望む可らざるみとゝ觀念せざる可らず左れば今の功臣の人々も少しく此邊に心して自家の功名の既に大にして社會羨望の燒點たる其上に内部の情實も遂に一掃の望なくして萬事意の如くならざるを合點したらんには維新以來今日に至るまでの事業を以て人間一生の功名には最早や滿足なりとして後半の事業を他人の功名に付するみそ一身の利害の爲め否な社會の治安の爲めに策の得たるものなる可し或は自から任ずるみと大なるものは自から信ずるみとも深くして吾々にして去らば其後を如何せんとの心配もあらんなれどもビスマルク去てカプリヴイありグラットストン死するも第二のグラットストンなきを憂へず今の政府中に在る第二流三流の政治家なり又は民間後進の政治家なり諸老の後を承けて維新の大業を大成す可きもの世間自から其人に乏しからず後の心配は先づ以て無用なる可し然りと雖も一生の事業未だ半に至らずして自から引退するは男子の事に非ずと云へば是れも亦一説にして傍より云々す可きに非ず其人々にして果して斯る決心ならんには浮世の俗榮を脱却して尊大の癡情を去り磊落簡易維新當初の精神に立戻りて直に大政の難局に當り今日唯今を政治出身の門出と覺悟して更に第二の維新を企るの心得なかる可らず功名既に一世を蓋ひ爵位既に人臣を極めながら區々たる情實の爲めに羈されて事業の更に見る可きものなきときは滿社會の衆怨は其一身に集まりて政治の運轉は益々圓滑を欠くに至る可し我輩は其一身の爲めのみならず國の治安の爲めに斷然の進退を見んと欲する者なり

雜報

○朝鮮政府國中の力士を徴す　朝鮮政府の事情切迫は毎度の報告にして今は殆んど人の耳に慣れて驚く者もなき程の有樣なるが最近の通信に閔派の一類は支那の交際も面白からず又大院君の意にも叶はずして自立の根據堅固ならざるより寧ろ北隣の露國に依頼せんとて種々計畫する中に財政は相替らず窮迫して朝野に不平の聲を絶たず近來は一層不穩の沙汰あるより政府は自衛の爲めにとて各地方に令して力量逞しき壯年を徴し徴に應ずる者へは毎月一貫文(凡我十圓)を給するの約束にして日本にて云ふ壯士又は田舍相撲の輩は續々京城に集まると云ふ

○清國公使館　は府下永田町なる舊二本松藩邸の舊家屋にてありしが今度改築するみとに決し我建築技師に囑托して製圖も既に成りて近日着手のよし其計畫は都て西洋風にして建築費の豫算六萬圓、裝飾費五萬圓凡そ十一萬圓の見込なれども尚は其工事中に樣々の注文も生ず可ければいよ〳〵成功までには概算十五六萬圓にも上る可しと云ふ現任公使李經芳氏は李中堂の義子にして本國に於ても聲望既に輕からず前年中は商業に從事したるみともあり其後久しく歐羅巴に在留して西洋文明の事情を明にし性質磊落にして善く人に交はる尋常一樣の貴公子に非ず且その資産の厚きは隱れもなき事實にして内外人の夙に知る所なり此人にして此資産あり政治上の運動自由ならざるはなかる可し左ればにや今度の新築も全く同公使の立案に出でしとにして今後我國に於ける清國人の交際法は漸く面目を新にするみとある可しと云ふ

○第三種郵便物に就て　遞信省にて第三種郵便物認可規則を改正せしより今日迄に願出でしもの殆んど九百餘種に及びし由なれども其内認可せられしものは僅に三百八十六種なりと云ふ

○香川縣の測候所　香川縣下には從來測候所の設け無かりしを今度同縣會にて設立の事に議決したりし趣にて愈々來七月一日より同縣下多度津へ一等測候所を設けて氣象の觀測を始むるよし

○地方官上京　大越滋賀縣知事は一昨十一日上京し京橋區山城町山城軒へ投宿せり

○法官弁に技師の出張　長野縣北佐久郡小室町伊藤正道氏外四十一名の代言人小笠原久吉氏より井上鐵道廳長官に係る線路敷設の損害要償金九千圓請求事件に付主任松室判事は來る十七日工學博士田邊作郎氏及び原被兩造の代言人と共に該地に出張するよし

○米價の居處　目下大坂强氣連の同盟買にて東京大坂共に非常の大取組を現したれば此同盟にして破るゝみともあらんか相場は坂落しに大下落を見ん又之を逆にして同盟の勝利に歸せんか米價は必ず暴騰すべし何れにしても本年は相場の動き年とて市場は日増に繁昌を來すよしなるが果して其待設けの如く相場の動くべきや又買占の力が實際相場を釣上げ居るものか元來本年の米價は何れの邊にありて然るべきやと云ふに斯は一寸難問なれども米穀の如き多數の商品は一人又は數人の力にて買占め得べきにあらず假令ひ大坂米商の腕强しと雖も一方にて買ひ上げんとすれば一方には又買占の起りたるときにみそ相場の高き時なれば其間に賣らんとするもの出て來るは當然にして一人が需用外に百萬石を買ひ占むるも十人が秋に賣るべきものを此際十萬石づゝを賣れば詰まり相場の平衡を得て高低なかるべき筈なり只動力の原則により一時腕强き買手の顯るれば相場の外に逸して多少の變動を起すみとなきにあらず即ち昨年の十一月中大坂九圓十錢東京八圓六十錢の高直を出し詰り五七十錢を上げ過ぎたるは全く買占の結果なれども是等は久しきに堪へ得べくもあらず直ちに引戻して今日迄持合の姿を顯せしは今の相場に僞りなき證ならん此際買手の力と賣手の力とを衡にかくれば雙方共に五分〳〵にして只人數に多少あるのみなれども只少しく買方に强味ありと思はるゝは所謂提灯連の付添ひ居る一事にして衡は稍や買方に重く隨て相場も幾分か引締の氣味あり左れど提灯連の力は何れにしても僅々のものなれば本年米價の居處は矢張昨今の相場七圓四五十錢の邊ならんと云へり

○大坂連の意氣込益々强し　大坂强氣の一味は目下東京は二十萬餘俵の正米を抱へて少しも賣り退く樣子も見えざるのみか三月期に於て買取りたる米穀も昨今檢査の濟みたる分より引取り居るみとなるが從來受渡了るも之を他に移すには運搬の費用もあり米の升減もあれば只持主の名を書換へる迄にて同一の倉所に預け置くみとなるに今般受取りたる米は直に買手の本據とも聞えし米穀倉庫會所にあるより賣屋の倉に預け置きては延喜悪しと云ふが爲
めす爲めか升減運賃等の
京倉庫會所の倉所へ運搬
ては强氣は何處迄强きも
是れは金融の爲めなりな
に集るものゝ如しと

○海上保險料　朝鮮近海
品中東京海上保險會社の
り旨前號の紙上に記載
が神戸を發して朝鮮に向
なれば其は總て安全なり
朝鮮を發して神戸へ歸航
同會社の保險付は全く三

○帝國ホテルの義擧　帝
罹りし貧民救助の爲めに
ても無代價にて貸渡すと

○老人の命拾ひ　今回の
さへ二十餘名ありたるが
となり火力は猶大道を隔
樣なりしが同時に錦町
(七十四年)は火焰の中を
く畑は同橋近傍一面を捲
打倒れたる折柄稻垣憲兵
之を脊負ひ直に東京憲兵
漸く蘇生したるに因り
るよし

○燒死者の憐れ　今度の
を遂げたるものも尠から
地汁粉屋仲佐惣七の養女
母は衣服を着せ戸口の外
き自分は再び家に入り荷
至りすゑの行方を穿索す
を取調べ見たるに竈の傍
の上に金子を入れたる蝦
が右の蝦蟇口を取出さん
圍まれ最後を遂げたるな

○空間なし　神田區に於
空間ありとの張札を爲
火災に罹り燒出されし貴
火災を免れし下宿屋に來
共に一室の空間もなく
りと云ふ

○飛鳥山の櫻　は最早な
五日頃は滿開となるべし

○美術パノラマ　淺草公
歐洲に注文せる明年米國
博覽會大工事の圖を初め
むたるを以て不日取立て
準備中なりと

○工業雜誌　今度京橋區
工業雜誌は工學士諸氏の
業思想を普及せしむるに
るみと尠からざるべし

聲訴

○水道中止論者に質す
水道中止論者は今回我

○上州鐵道發車時刻(上野高崎前橋間)　上野發　午前六時、八時五十分、十一時四十分、午後二時四十分、五時四十分、九時九分●高崎發(下り)午前九時十分、午後零時十五分、三時九分、六時九分、九時九分〇(上り)午前六時五十分、九時十五分、午後零時廿一分、三時十二分、六時十一分●前橋發(上り)午前六時、八時五十五分、十一時十分、午後二時五十分、五時五十分

○水戸鐵道發車時刻　小山發(水戸へ)午前五時十分、七時十分、十一時十四分、午後四時十九分、七時十五分〇(上り)(小山へ)午前六時十分、十一時十五分、午後二時、六時三十分●前橋發(小山へ)午前五時、七時十分、十一時十七分、午後三時七分、七時三十分●水戸發(小山へ)午前六時[illegible]、九時十五分、午後一時七分、四時三十二分、七時五十二分〇(上り)午前七時十四分、十時三十四分、午後一時五十九分、五時十九分●直江津發　午前七時十四分、午後一時四十五分、五時五分

○上野青森間發車時刻　上野發　午前六時三十五分(盛岡迄)八時五十分[illegible]

上野發(白河迄)十一時四十八分(白河迄)[illegible]